

文教・警察常任委員会資料
平成29年(2017年)9月13日(水)
教育委員会事務局幼小中教育課

学ぶ力向上 滋賀プランの分析

—平成29年度全国学力・学習状況調査の結果から—

平成29年9月8日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

1 「学ぶ力向上 滋賀プラン」について

平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の結果から、子どもたち自身に「できた」「わかった」という実感のある授業が十分に実現できていないことや、学年間や教科間連携がさらに必要であること、また、家庭での学習習慣の定着をはじめとした児童生徒の学習状況にも課題がみられました。

そこで、特に本県における就学前から中学校までの、子どもたちの学ぶ力の向上に向けた目標と施策の方向性を示す 4 年間の中長期計画を策定することとし、その中で、一人ひとりの子どもに、学ぶ力をつけるための視点として、子どもたち一人ひとりの学ぶ力を高め、「夢と生きる力を育てる教育」を県全体で推進するため、「学ぶ力向上 滋賀プラン」を策定（平成 27 年 3 月）しました。

※ 全国学力・学習状況調査は毎年、4 月に実施されることから、調査の結果を、前年度の取組成果の指標としてとらえ、学力や学習状況等を改善するために、PDCA サイクルにより学ぶ力を向上する取組を進めています。

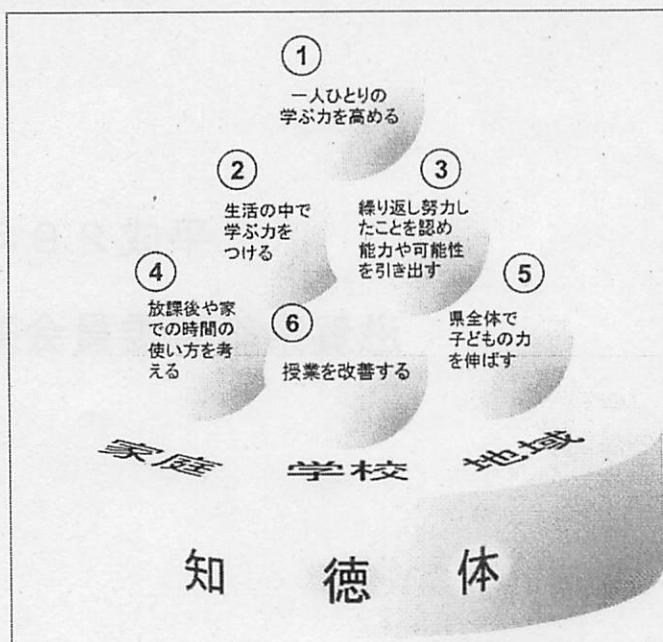
2 「学ぶ力向上 滋賀プラン」の 6 つの視点について

（1）6 つの視点と指標の設定

プランでは子どもたちの学ぶ力を高めるために、下図にある「学ぶ力を育むための 6 つの視点」を設定し、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の中から、それぞれの視点に関連すると考えられる質問項目を 4 項目ずつ選択し指標としています。

質問項目の選定にあたっては、プランにおいて「仲間と周囲とのつながりを大切にし、自ら進んで学び、自分の将来を真剣に考えることができる子ども」「互いの良さを認め尊重し、自ら進んで挑戦し、やり抜くことができる子ども」を育てる「夢と生きる力を育てる教育」を県全体で推進することを目指していることから、下線部分をキーワードとして、指標となる項目を選定しました。

指標とした質問項目の多くは、教科の平均正答率と有意な相関関係があるものを設定し、「将来の夢や目標を持っていますか」などの相関関係が高くない項目であっても、より根源的な部分から学ぶ力を支えている可能性のあるものについては、総合的に学力を向上させるために重要であると考え、指標として設定しました。



学ぶ力を育むための6つの視点

① 一人ひとりの学ぶ力を高める

- ☐ 豊かな人間性や人間関係を築く力を培う体験活動の取組
- ☐ 社会人・職業人として自立していくことができる教育の取組
- ☐ 一人ひとりに応じて個性や能力を伸ばす取組

「家庭」「学校」「地域」が
一体となって取り組む視点

② 生活の中で学ぶ力をつける

- ☐ 体験を通して学びの基礎を育む取組
- ☐ 学び合う学習環境をつくる取組
- ☐ 自分も他の人も大切にしたい集団をつくる取組

「学校」「家庭」が連携して
取り組む視点

③ 繰り返し努力したことを認め

能力や可能性を引き出す

- ☐ 繰り返し取り組み、学ぶ意欲や自信を高める取組
- ☐ 放課後を活用し、個に応じた学習サポートや運動機会の充実を図る取組
- ☐ 基礎的・基本的な知識・技能を定着させる取組

「学校」「地域」が連携して
取り組む視点

④ 放課後や家での時間の使い方を考える

- ☐ 個に応じたきめ細かな指導の推進を図る取組
- ☐ 家庭での学習習慣や、主体的な家庭学習を確立する取組
- ☐ 人間関係の育成や生活習慣の改善につなげる取組

子どもたちの夢と生きる力を
育てるための土台となる、
「家庭」「学校」「地域」の
それぞれが中心となって取り
組む視点

⑤ 県全体で子どもの力を伸ばす

- ☐ 学校・園、家庭、地域社会が一体となり、自己実現を図れるよう支援する取組
- ☐ 土曜日ならではの豊かな教育環境を提供する取組
- ☐ 体力の向上、運動機会の充実を図る取組

⑥ 授業を改善する

- ☐ 思考力・判断力・表現力を育成する取組
- ☐ 教科指導力を向上し、学力を高める取組
- ☐ 幅広い知識や授業技術等、実践的指導力を身に付ける英語教育の取組

(2) 指標の数値の算出方法

各視点の指標について、児童生徒の各質問の回答割合と表に示した点数をかけて合計し算出した数値をもとに、学ぶ力向上の取組の状況をとらえています。

表 児童生徒質問紙の選択肢の点数（指標の数値の算出）

児童生徒質問紙の選択肢	点数	児童生徒質問紙の選択肢	点数
「当てはまる」	4点	「どちらかといえば当てはまる」	3点
「どちらかといえば当てはまらない」	2点	「当てはまらない」	1点

※1 「読書…」については、30分以上、10～30分、10分未満、全くしないの順に4点、3点、2点、1点とした。

※2 「400字詰め原稿用紙…」については、そう思わない、どちらかといえばそう思わない、どちらかといえばそう思う、そう思うの順に4点、3点、2点、1点とした。

※3 「インターネット…」については、持っていない、30分より少ない、1時間より少ない、1時間以上の順に4点、3点、2点、1点とした。）

(3) 年度進行計画の策定

「学ぶ力を育むための6つの視点」をもとに、学ぶ力を育む6つのプランを、下のよう
に示し、市町教育委員会と連携して、各学校・園、家庭、地域と一体となって取り組むこ
ととしました。

学ぶ力を育てる6つの滋賀プラン(進行計画)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
・2年スパン(Ⅰ期・Ⅱ期)で4年計画を策定 ・学力・学習状況等の改善の方向性と施策を示す		Ⅰ期 基礎的・基本的な知識・技能の定着 学び方の指導、学ぶ意欲の向上 学習状況や生活習慣の改善 主体的な学びとなる家庭学習の定着		Ⅱ期 思考力・判断力・表現力の育成 課題発見能力・問題解決能力の育成	
(1)一人ひとりの学ぶ力をつけるプラン	体験活動の推進	＜うみのこ、やまのこ、たんぼのこによる体験活動など＞ 豊かな人間性や人間関係を築く力を培う			
	キャリア教育の推進	＜中学生チャレンジウィーク＞ 社会人・職業人として自立できる子どもの育成の推進			
	個に応じたきめ細かな指導の推進	＜少人数教育(少人数学級・少人数指導)＞ 一人ひとりに応じて個性や能力を伸ばす			
(2)生活の中で学ぶ力をつけるプラン	体験を通して学びの基礎を育成	＜学びの基礎体験型学習プロジェクト＞ 手引きを活用した授業研修会の実施 各学校・園での実践		＜H29 学びに向かう力推進事業＞ 幼児期からの学びに向かう力や小学校低学年における学びの基礎の育成	
	学び合う学習環境づくり	＜学級活動スキルアップ事業＞ 学び合う学習集団を作る取組		＜H29 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業＞	
	自他を尊重する集団づくり	＜滋賀県「絆をつむぐ学校づくり」推進事業＞ 自分も他の人も大切にしたい集団をつくる取組の推進		「滋賀県いじめ問題サミット」の開催 自分も他の人も大切にしたい集団をつくる取組の普及推進	
(3)繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出すプラン	繰り返し取り組み、学ぶ意欲の向上や自信の獲得	＜学年別ステップアップ事業＞ 「学び確認テスト」で課題を把握 「学び直しプリント」を活用して学び直し 基礎的・基本的な知識・技能の定着 → 思考力・判断力・表現力の育成			
	個に応じた学習サポートや運動機会の充実	＜放課後等活用事業＞ 補充学習の充実 放課後の活用を支援 運動機会の充実		予習・復習の充実 運動機会の充実	
	基礎的・基本的な知識・技能の定着	＜学ぶ力パワーアップ事業＞ 基礎学力を向上させる実践研究 成果の普及、各学校での実践		＜小学校専科指導による学力向上推進＞ 授業方法の工夫改善による基礎学力等の向上	
(4)放課後や家での時間の使い方を考えるプラン	放課後等の補充学習、運動機会の充実	＜放課後等活用事業＞(再掲) 補充学習の充実 放課後の活用を支援 運動機会の充実		予習・復習の充実(再掲) 運動機会の充実(再掲)	
	家庭での学習習慣や主体的な家庭学習の確立	＜家庭学習の充実＞ 各市町や学校で手引きを作成・「授業と連携して取り組む家庭学習」のための参考資料の作成と活用 児童生徒に家庭学習の意義や方法を指導 保護者に家庭学習の意義を説明、共通実践(小小連携・小中連携)			
	人間関係の育成や生活習慣の改善についての啓発	＜家庭向け各広報など＞ リーフレット等で学習習慣・生活習慣の改善を啓発 「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動の展開 食育の日の推進		「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動の展開 食育の日の推進	
(5)県全体で子どもの力を伸ばすプラン	学校、家庭、地域社会等が一体となり、自己実現を図れるよう支援	＜自尊感情・学びの礎育成プロジェクト事業＞ 仲間づくり、授業づくり、環境づくりなどを通して、日常的・継続的に自尊感情を育む取組を推進(中学校区)			
	土曜日ならではの豊かな教育環境の提供	＜学ぶ力を育てる土曜学習支援事業＞ 教員・保護者・地域人材の確かなつながりによる土曜学習の推進		＜土曜日の教育支援事業＞ 地域人材の協力・参画による土曜日ならではの教育支援活動の実施	
	体力向上・運動機会の充実	＜体育授業力向上事業＞ → ＜H28子どもの体力向上推進事業＞ 体育・保健体育授業の工夫改善・体力向上の推進			
(6)授業を改善するプラン	思考力・判断力・表現力の育成	＜学力向上アプローチ事業＞→＜H28 主体的・協働的な学び推進事業＞→＜H29 主体的・対話的で深い学び推進事業＞ 活用する力をつける実践研究 アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、学校改善(幼小中連携)			
	教科指導力の向上	＜教科指導力向上研修＞ → ＜学ぶ力向上推進リーダー研修＞ 初任者研修・中堅教諭等資質向上研修の内容精選・充実		＜H29 学校改善推進リーダー研修＞ ＜中学校授業改善推進加配(コアティーチャー)事業＞ ＜コアティーチャー養成研修＞ ＜小学校専科指導による学力向上推進＞再掲 校内研究の充実を図る研修の充実(幼小中連携)	
	系統的な英語教育の推進	＜しが英語力育成プロジェクト＞ 小・中・高を通じた系統的な英語教育を推進			

■ 学ぶ力を育むための6つの視点における指標および目標

6つの視点	【指標】児童生徒への質問項目
一人ひとりの学ぶ力を高める	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか
	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか
	将来の夢や目標を持っていますか
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
生活の中で学ぶ力をつける	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
	自分には、よいところがあると思いますか
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか
	算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
放課後や家での時間の使い方を考える	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか
	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
	家で、学校の授業の予習をしていますか
県全体で子どもの力を伸ばす	今住んでいる地域の行事に参加していますか
	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか ★
	人が困っているときは、進んで助けている ★
授業を改善する	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか
	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

※ 質問項目の変更について

平成28年度児童生徒質問紙調査で、指標としていた質問項目が削除されたため、平成28年度から以下の質問項目を指標とした。（表中★印の指標）

- ・平成27年度までの指標「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」
→ 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」に変更。
- ・平成27年度までの指標「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」
→ 「人が困っているときは、進んで助けている」に変更。

3 滋賀県の子どもたちや学校の状況

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の結果からは、子どもたちの生活習慣等や学校の取組について、以下のような状況がみられます。

【子どもたちの状況】

- 子どもたちの学力については、小学校は平均正答率の経年変化は大きな変化はないものの、平成 29 年度、全国平均との差が広がる結果となった。中学校では平均正答率の経年変化で伸びが見られるが、数学A問題については、平成 29 年度、全国平均との差が広がる結果となった。
- 2 時間以上、家庭学習をしている児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国を下回っている。
 - ・学校の授業の予習や復習をしている割合は、小・中学校とも、全国と比べて低い。また、小学校は、中学校と比べて高い。
- 3 時間以上、テレビやビデオ・DVDを見ている、テレビゲームをしている児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国を上回っている。
- 3 時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしていると回答した児童生徒の割合は、小学校は全国と比べて低い、中学校は全国と比べて高い。

【学校の状況】

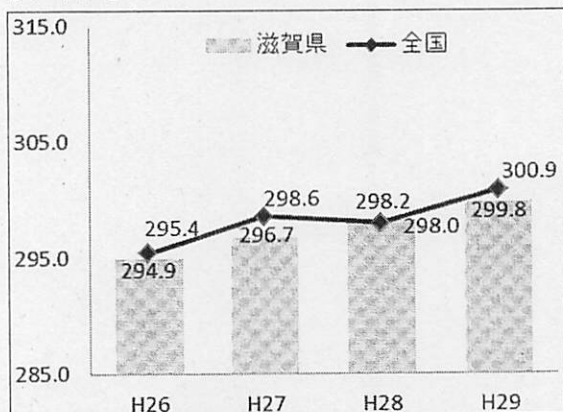
- 教職経験年数の少ない教員の割合が、小・中学校とも、全国と比べ高い。
 - ・教職経験が 5 年未満、5 年以上 10 年未満の教員の人数の割合が高い。
- 保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけや家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした学校の割合は、小学校は全国とほぼ変わらないが、中学校は、全国と比べて低い。また、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた家庭学習の取組は、小・中学校とも、全国と比べて低い。
- 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底した学校の割合は、小・中学校ともに、全国と比べて低い。
- 調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合は、小・中学校ともに、全国とほぼ変わらない状況にあるが、石川県、秋田県と比べると、大きく下回る。

4 6つの視点における成果と課題

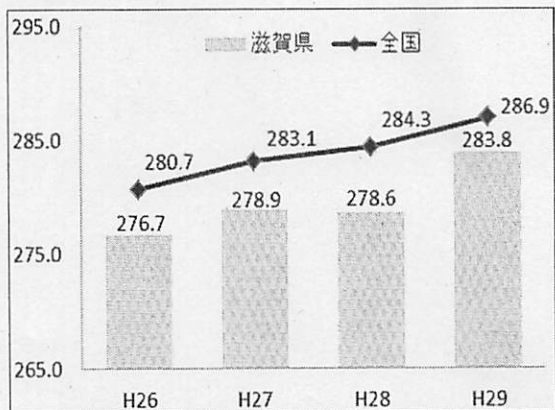
(1) 一人ひとりの学ぶ力を高める

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

【小学校】

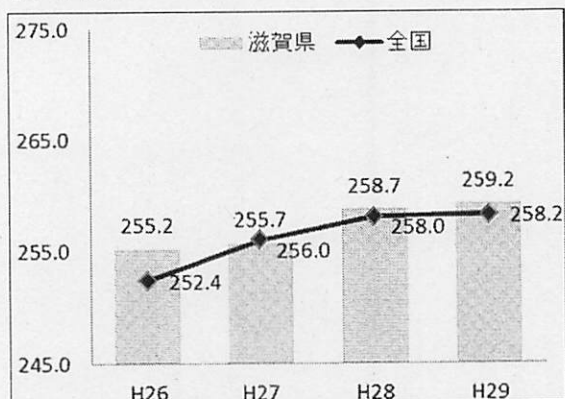


【中学校】

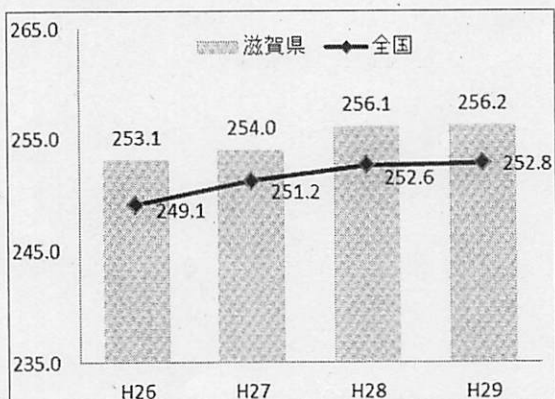


友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

【小学校】

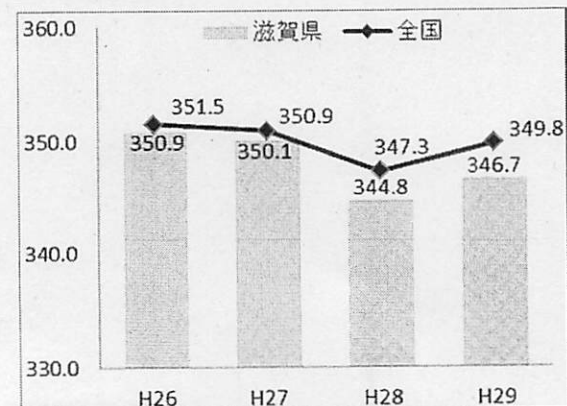


【中学校】

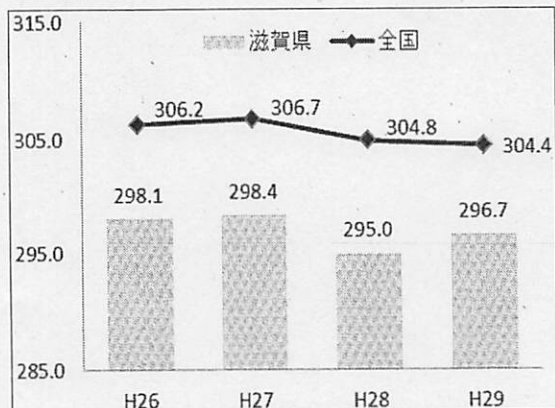


将来の夢や目標を持っていますか

【小学校】

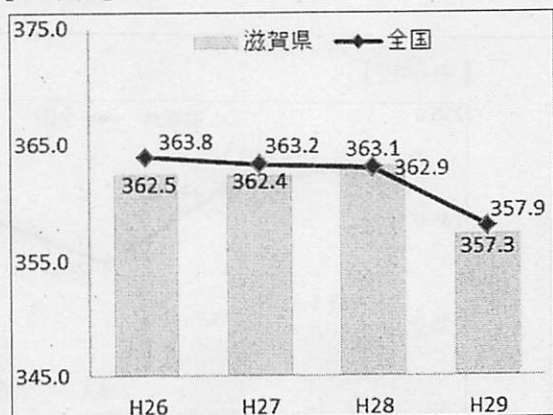


【中学校】

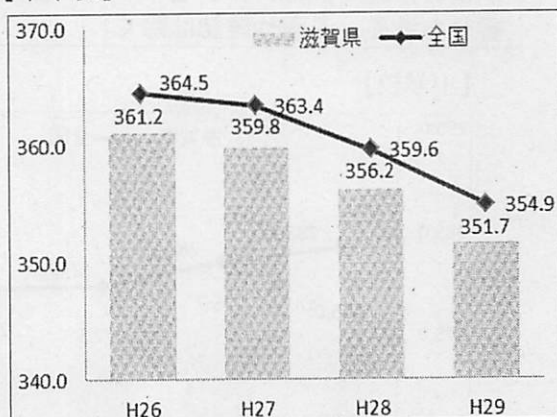


人の役に立つ人間になりたいと思いますか

【小学校】



【中学校】



○成果 「自ら進んで挑戦する力」の向上

- ・「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の指標については、小中学校とも改善傾向にある。

特に「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の指標については、全国と比較してもポイントが高い。

個に応じたきめ細かな指導や、「うみのこ」「やまのこ」などの体験活動で、自ら課題を考えて情報を整理し、調べたことを発表する活動を充実させたことが、少しずつ成果として表れてきていると考えられる。

○課題 「自分の将来を真剣に考えること」

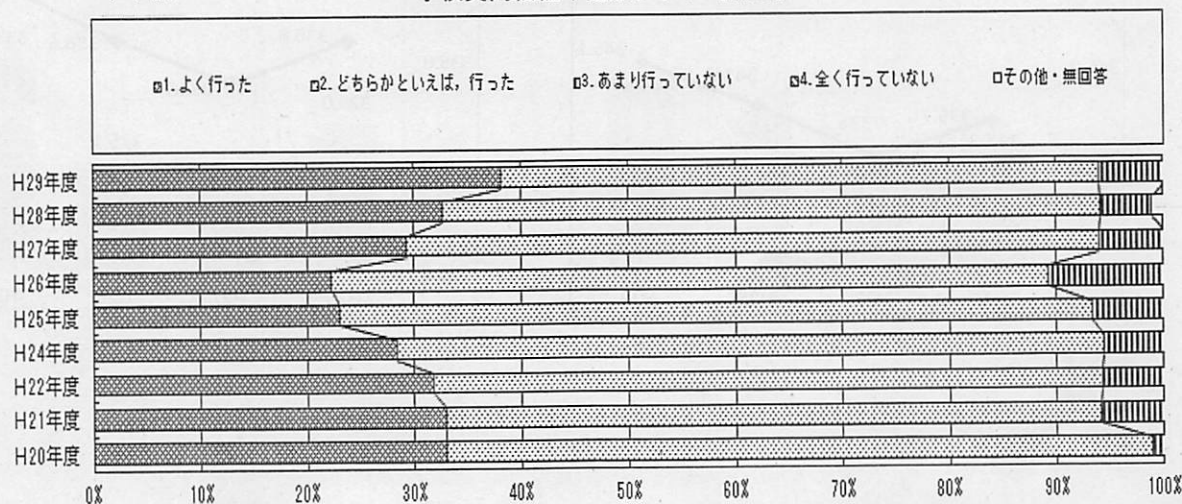
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の指標については、ポイント数は高いものの、改善が見られない。特に「将来の夢や目標を持っていますか」の指標については、全国と比較しても下回っている状況が続いている。

「中学生チャレンジウィーク」などのキャリア教育を推進しているが、さらに、子どもたちへの活動に対しての意味づけや振り返りなど活動の取組が必要である。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

中学校

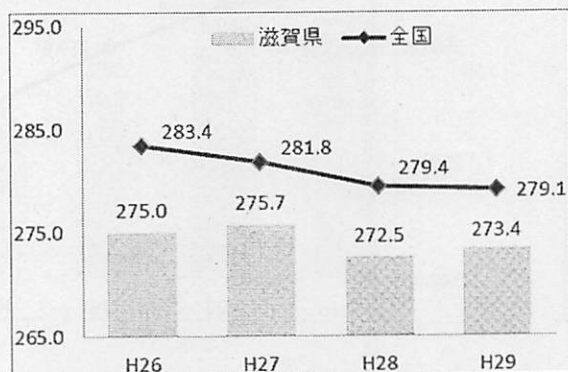
学校質問紙経年推移グラフ【滋賀】



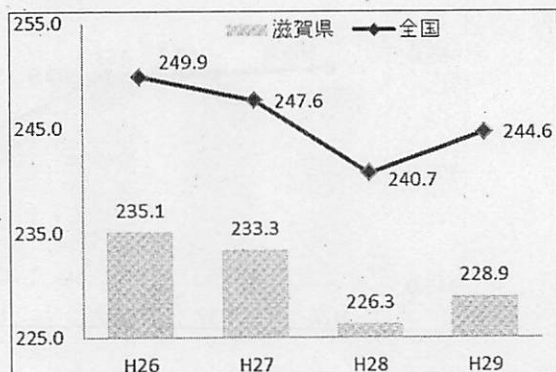
(2) 生活の中で学ぶ力をつける

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり 30 分以上、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【小学校】

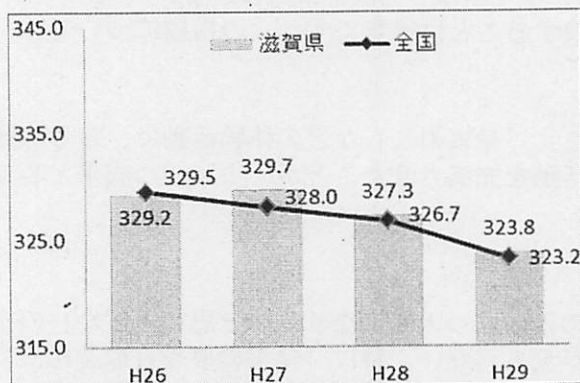


【中学校】

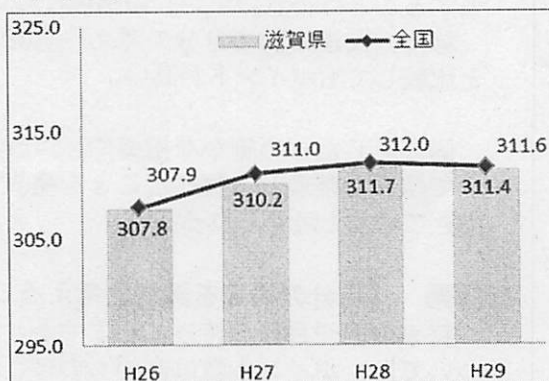


家の人と学校での出来事について話をしますか

【小学校】

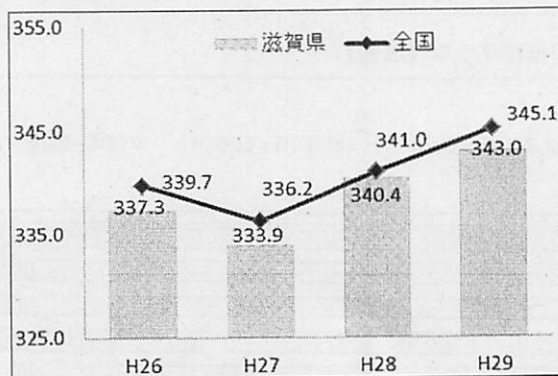


【中学校】

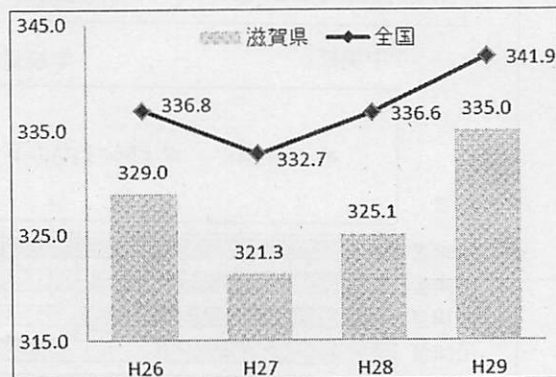


学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

【小学校】

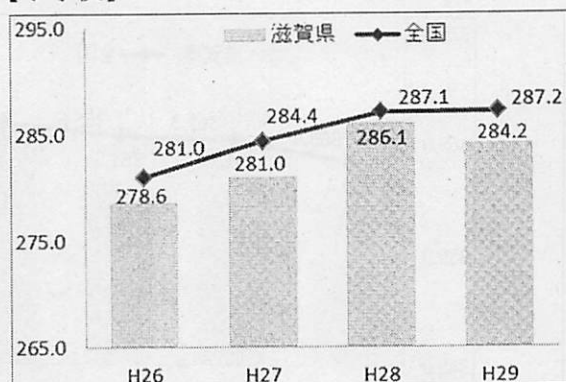


【中学校】

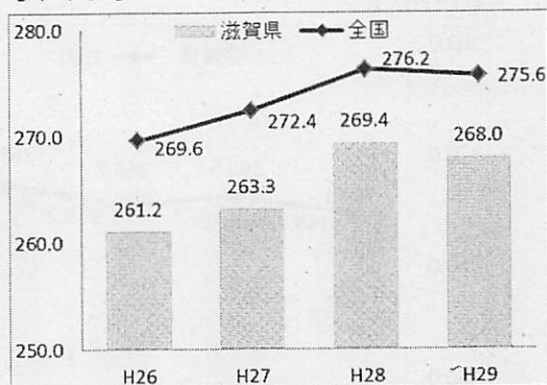


学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】



【中学校】



○成果 「互いの良さを認め尊重する力」の向上（学級づくりへの意識の向上）

- 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の指標については、改善の傾向が見られている。

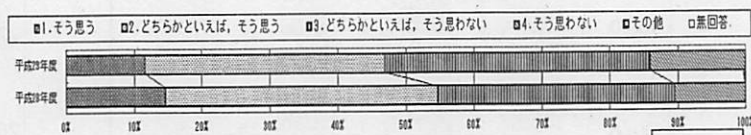
学級活動スキルアップ事業や各教科の授業などの、学び合う学習集団づくりの取組により、帰属意識が高まったと考えられる。

しかし、中学校においては全国との差が大きい状況が続いている。話し合う活動は増えてきているが、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合うなど、話し合い活動の質の高まりが必要である。

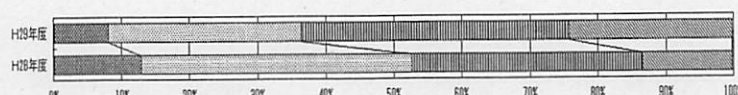
学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめているか

児童生徒質問紙経年推移グラフ【滋賀】

小学校



中学校



○課題 「読書の習慣」

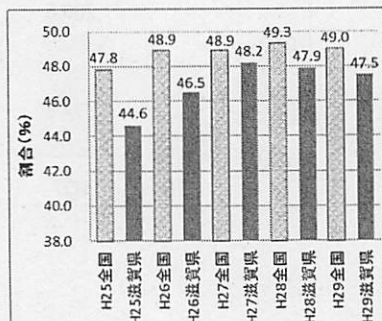
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上、読書を読みますか」の指標については、全国と比べても非常に低い状況が続いており、改善されていない。

読書が好きな子どもの割合も、全国と比べて低いことから、幼少期から本に親しむ機会や、魅力のある学校図書室経営、読書を習慣化するための時間の確保などが必要である。

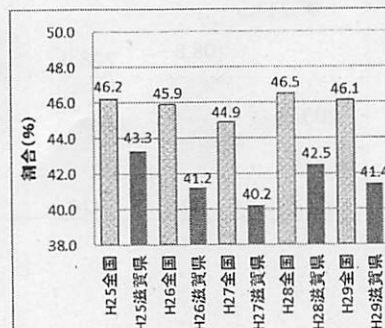
読書は好きですか

児童生徒質問紙経年変化（※当てはまると答えた割合）

小学校



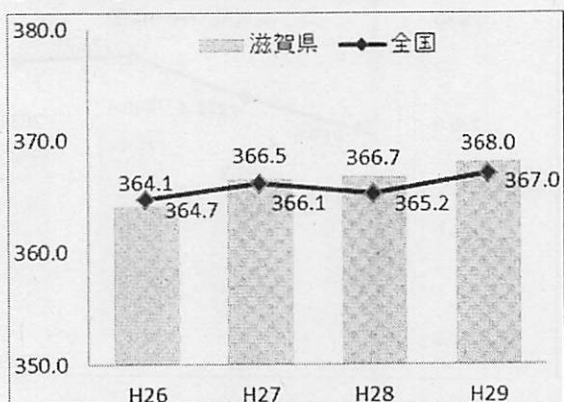
中学校



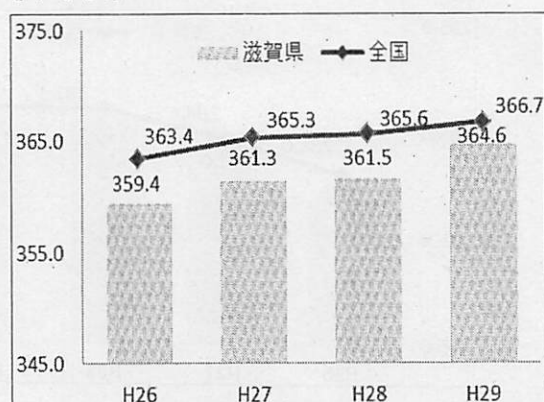
(3) 繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

【小学校】

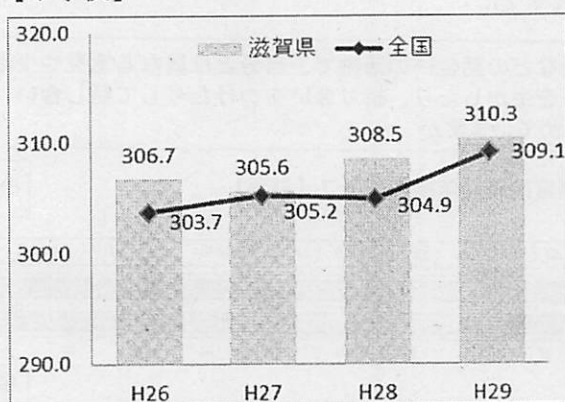


【中学校】

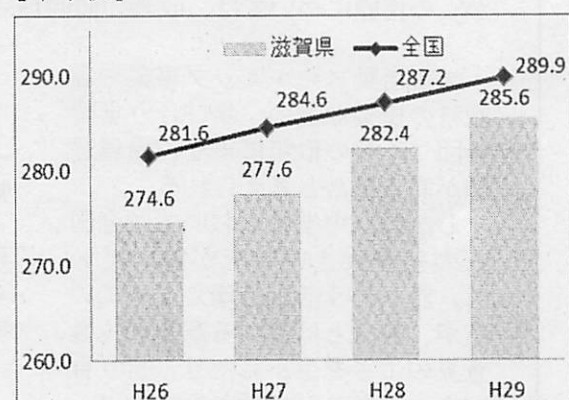


自分には、よいところがあると思いますか

【小学校】

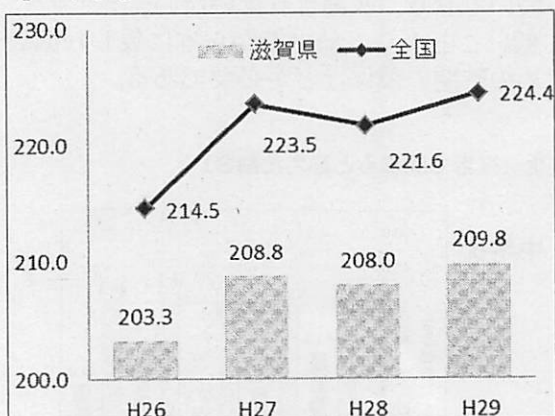


【中学校】

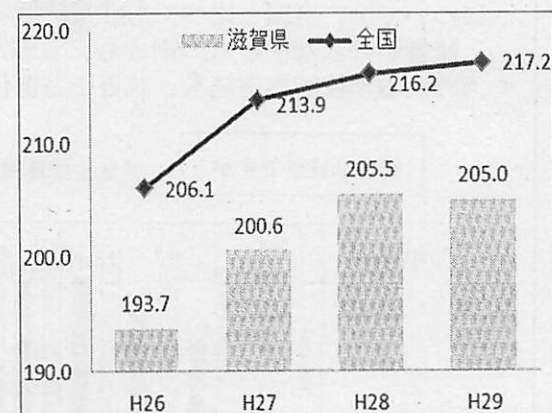


400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思いますか

【小学校】

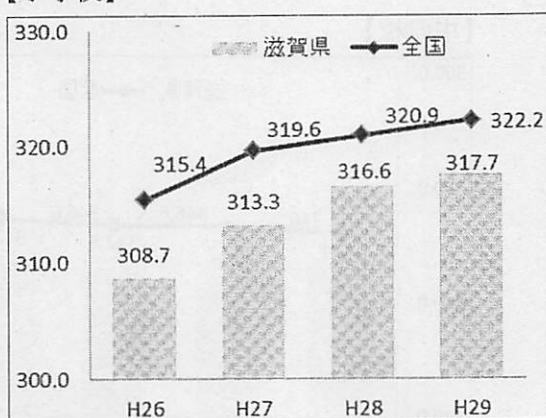


【中学校】

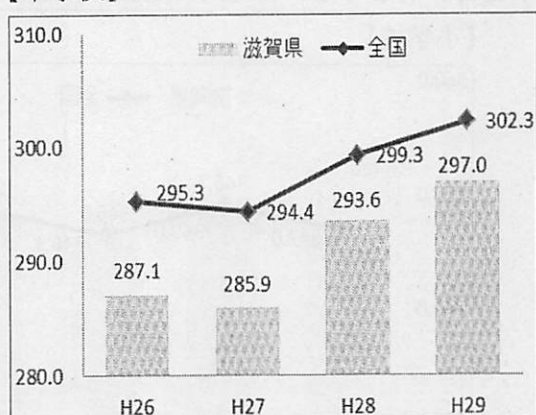


算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

【小学校】



【中学校】



○成果 「やり抜くことができる力」「自己肯定感」の向上

- ・「学年別ステップアップ事業（H27～）」での学び確認テストの実施や学び直しプリントを活用した学び直し、「学ぶ力パワーアップ事業（H26～H28）」での少人数での指導実践を進めたことで、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」と「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の指標で改善の傾向がみられた。

また、これらの取組により、できたことへの満足感や達成感が生まれ、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目についても改善の傾向がみられた。

○課題 「考えをもったり、述べたりする力」

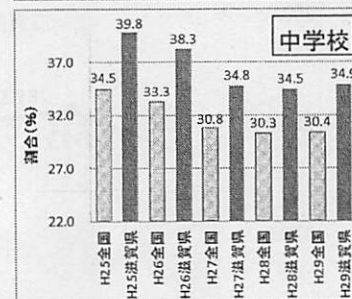
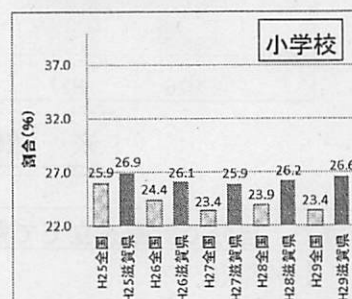
- ・「400 字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思いますか」の指標については、改善の傾向はみられるものの全国との差は非常に大きい状態が続いている。

「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい」という項目についても全国との差が大きい。「書く」という学習への出会いを大切にして、様々な場面や条件で楽しみながら書く活動に取り組ませたり、家庭学習で自分の考えを書いたりする課題を与える等、書く活動の充実が必要である。

算数の記述問題に課題がある点も関連していると考えられる。

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

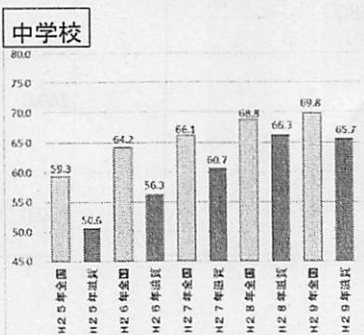
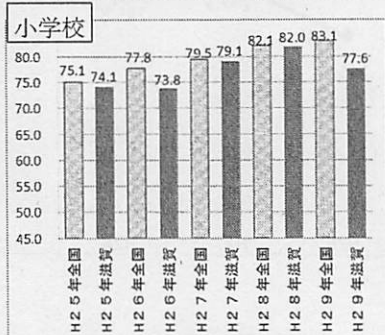
児童生徒質問紙経年変化
(※当てはまると答えた割合)



※難しいと答えている子どもの割合が高い。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか

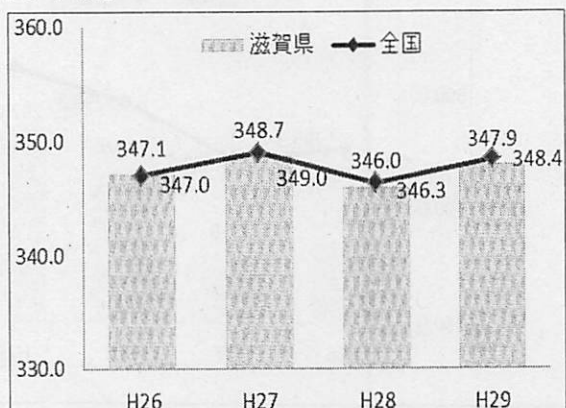
学校質問紙経年変化 (※当てはまる、どちらかといえば当てはまる)



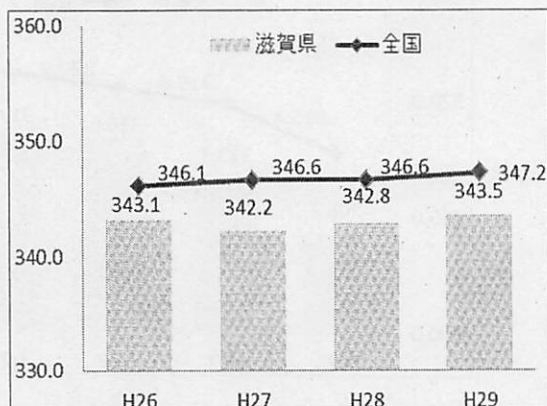
(4) 放課後や家での時間の使い方を考える

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

【小学校】

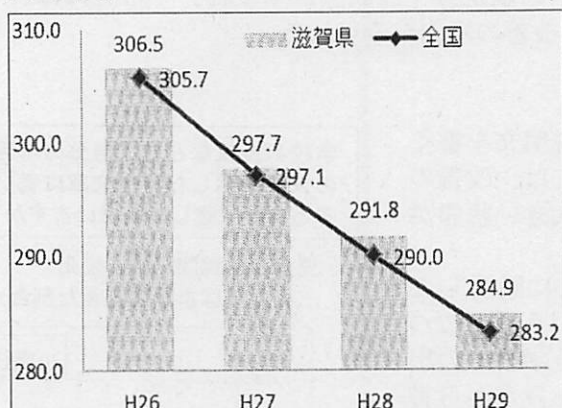


【中学校】

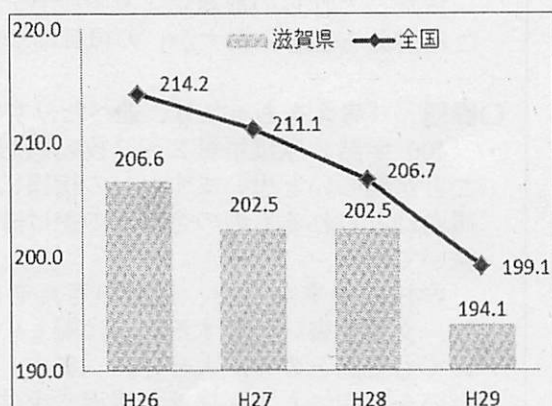


普段（月～金曜日）、1日当たり、どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（ゲームをする時間は除く）

【小学校】



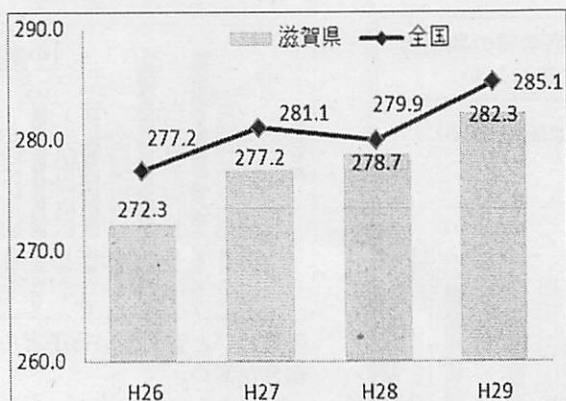
【中学校】



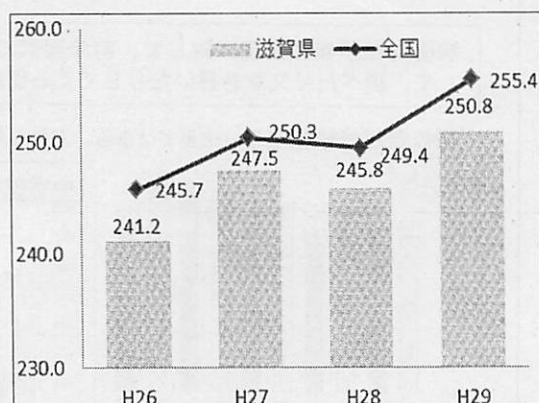
※ 数値が低いほど使用している時間が長い

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

【小学校】

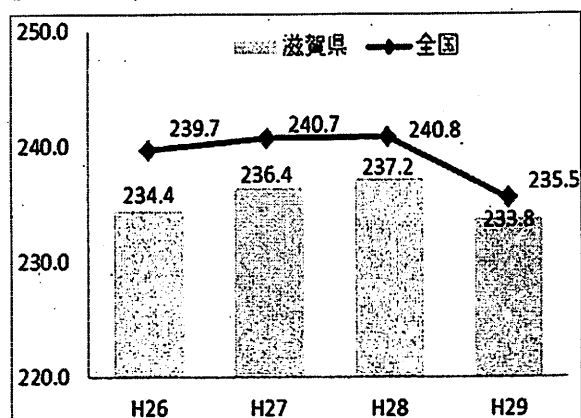


【中学校】

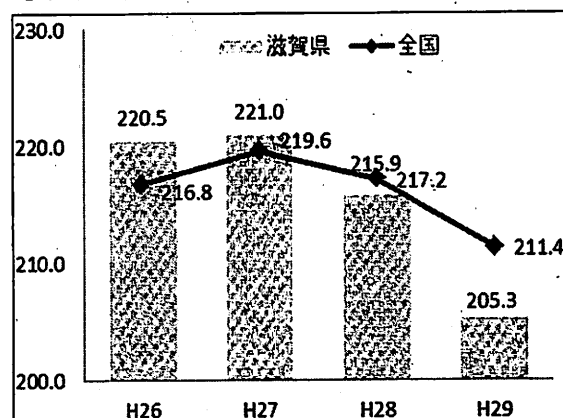


家で、学校の授業の予習をしていますか

【小学校】



【中学校】



○課題 「生活習慣（家庭での過ごし方）」

- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の指標においては、年々、使用している割合が増加傾向にある。

放課後の子どもたちの過ごし方を見ると、テレビやゲーム、インターネットをしている子どもや、家族と過ごしたり友達と遊んだりする子どもの割合が高い一方、勉強している時間が少ない。

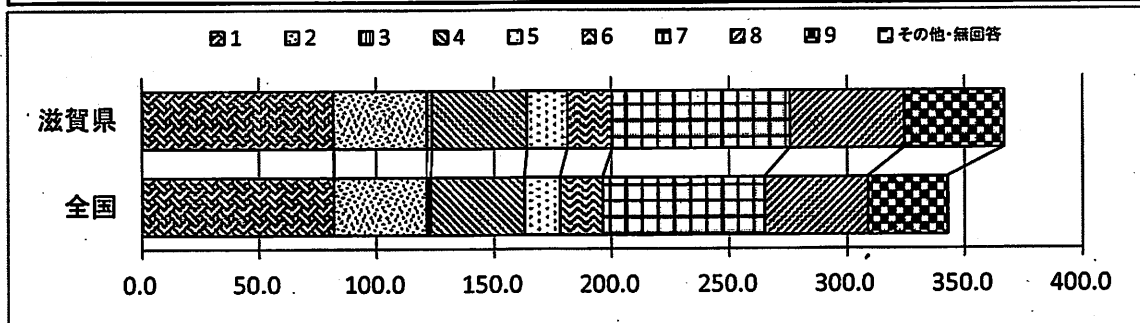
- 家庭学習の充実については、各市町や学校で「家庭学習の手引き」を作成したり、生徒会で取組を進めたりする学校もある。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の指標においては改善傾向にあるが、「家で学校の授業の予習をしていますか」の指標については減少した。

スマートフォンの使い方やテレビ、ゲームを見る時間などのルールを決める等、地域・家庭と連携して改善していく必要がある。

生徒質問紙

放課後に何をして過ごすことが多いですか【中学校】									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
滋賀県	81.6	39.6	2.2	40.4	17.2	19.3	75.5	48.9	41.8
全国	81.8	39.7	1.5	40.0	15.7	18.4	68.8	44.2	39.4

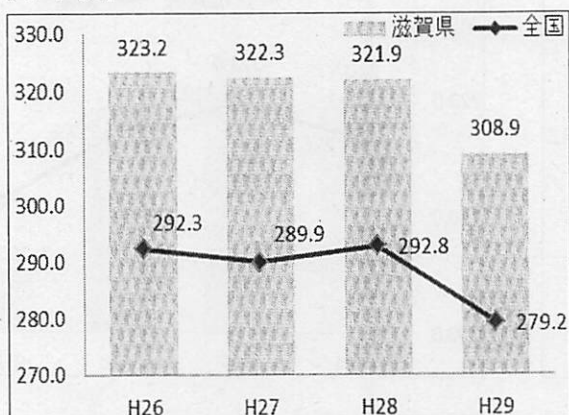
- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 部活動に参加している | 2. 家で勉強や読書をしている |
| 3. 地域の活動に参加している | 4. 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している |
| 5. 習い事(スポーツを除く)をしている | 6. スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている |
| 7. 家でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている | 8. 家族と過ごしている |
| 9. 友達と遊んでいる | その他・無回答 |



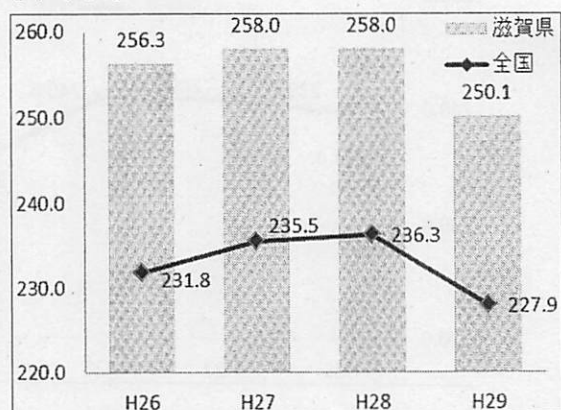
(5) 県全体で子どもの力を伸ばす

今住んでいる地域の行事に参加していますか

【小学校】

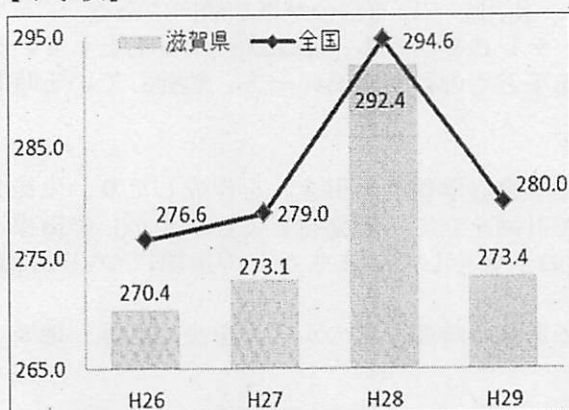


【中学校】

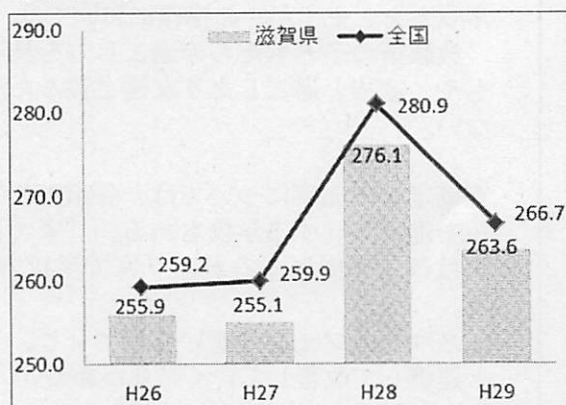


地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

【小学校】

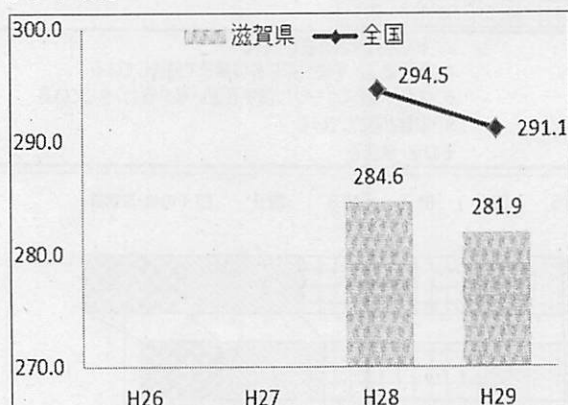


【中学校】

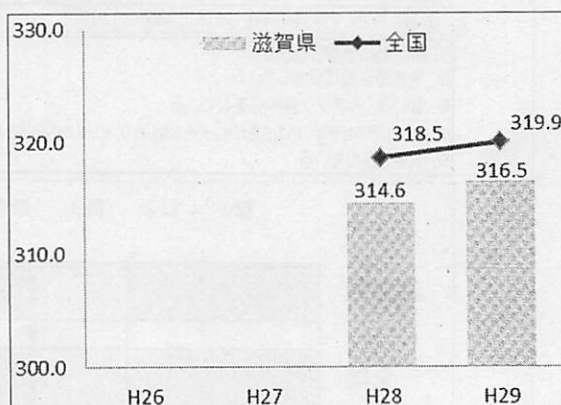


地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか ★

【小学校】

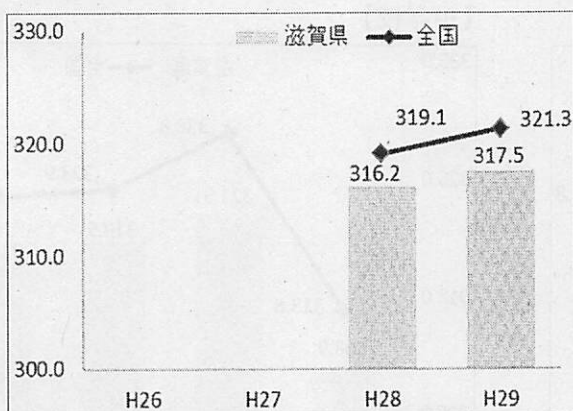


【中学校】

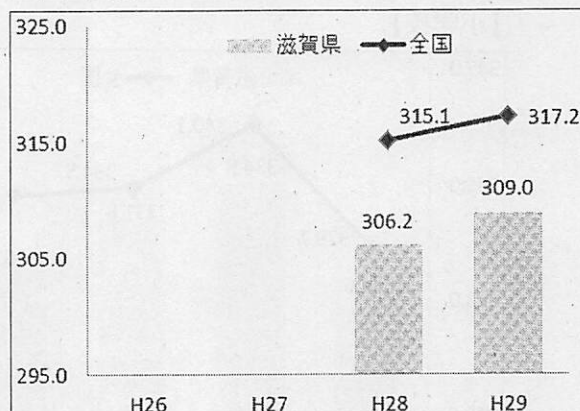


人が困っているときは、進んで助けている ★

【小学校】



【中学校】



○課題 「地域や社会とのつながりの実感」
「仲間と周囲とのつながりを大切にする力」

- ・例年、全国よりも高い水準にある「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の指標については、減少してきており、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の指標については、全国を下回っている。

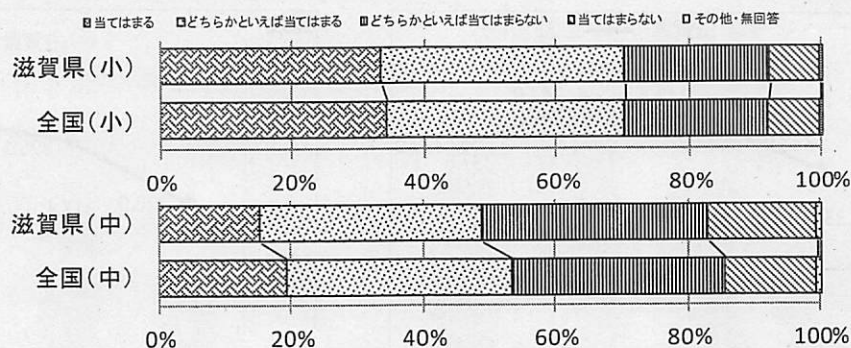
地域行事には参加しているものの、社会のようすに関心をもち、自分から情報を収集して、進んで社会と関わる態度を養う必要がある。

地域のことについて調べたり、地域の人と関わったりする学習を、総合的な学習の時間などを中心に構成して、探究的な活動を仕組むことで、地域に愛着をもつなどの活動を充実させる必要がある。

児童生徒質問紙

授業や課外活動で地域の事を調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
滋賀(小)	33.5	36.9	22.1	7.4						0.3
全国(小)	34.5	35.7	21.6	7.8						0.4
滋賀(中)	15.5	33.5	34.1	16.2						0.7
全国(中)	19.4	34.3	31.9	13.9						0.6



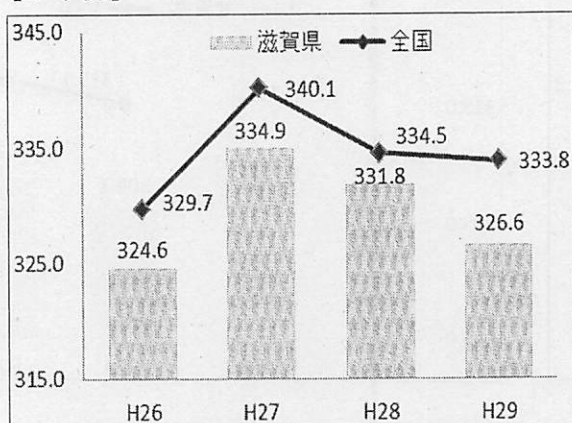
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」の指標については、小中ともに改善の傾向はみられるが、特に中学校で全国と比べると大きく下回っている。

自己有用感を感じる学級経営の取組や、道徳的実践力を育む指導の充実が必要である。

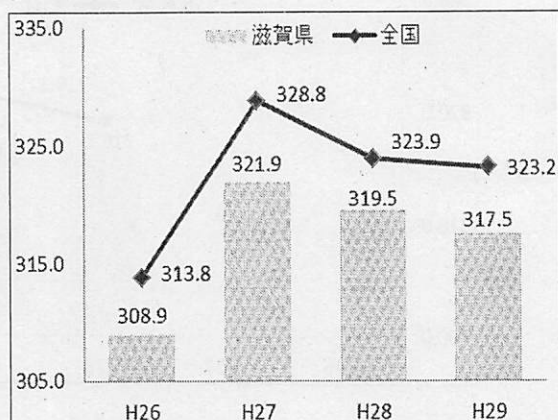
(6) 授業を改善する

授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

【小学校】

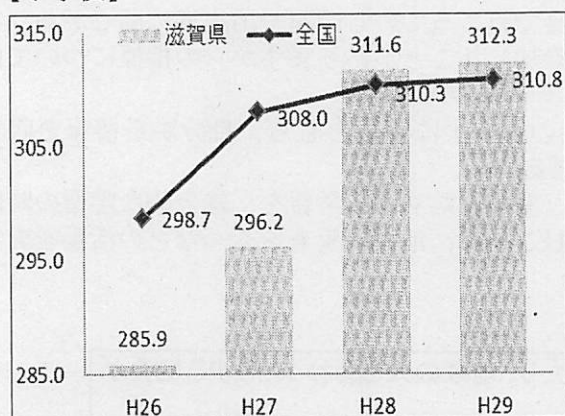


【中学校】

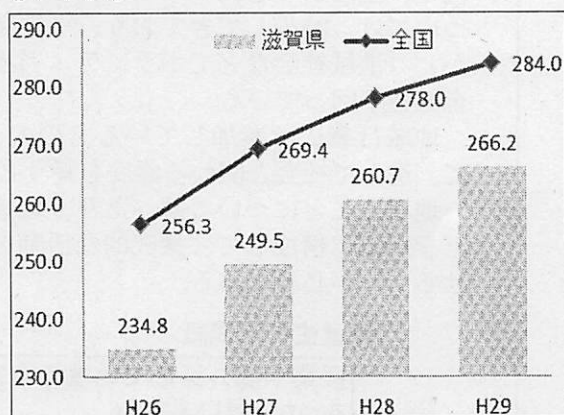


授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

【小学校】

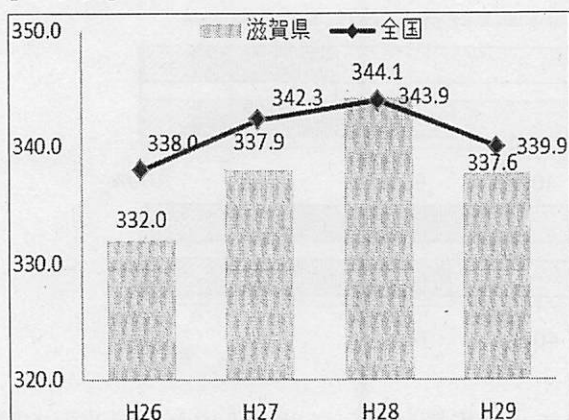


【中学校】

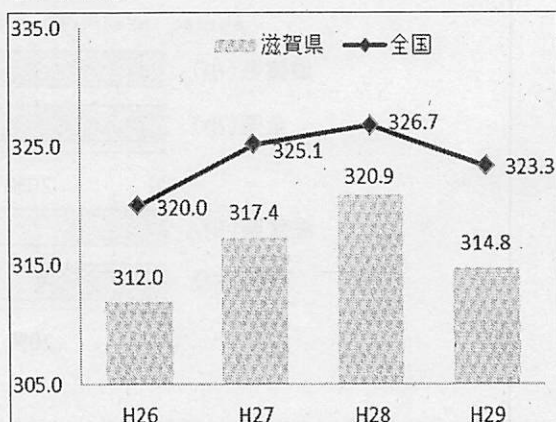


国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

【小学校】

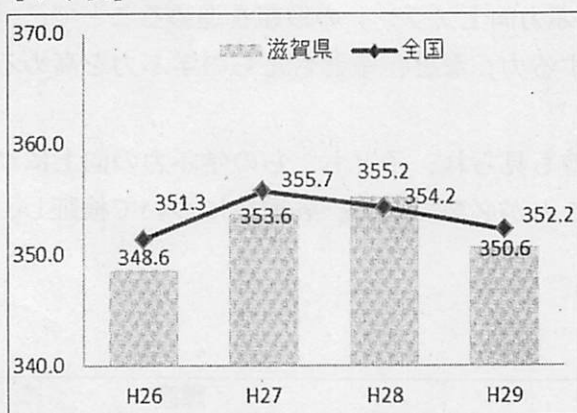


【中学校】

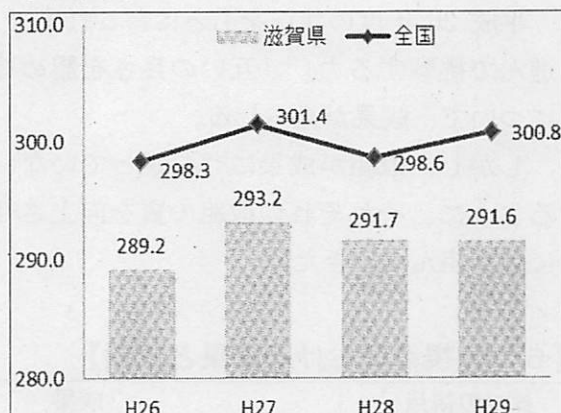


算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

【小学校】



【中学校】



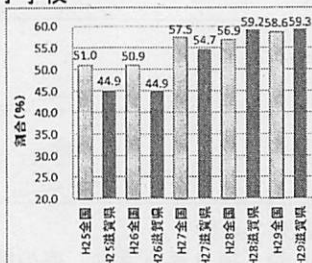
○成果 授業スタイルの普及による「話し合う活動」や「振り返る活動」等の機会の増加

授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

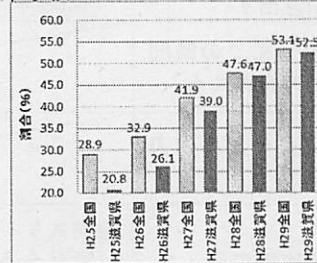
- ・「学力向上アプローチ事業（H25～H27）」「主体的・協働的な学び推進事業（H28）」「教科指導力向上研修（～H28）」等の取組により、小・中学校ともに、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」という指標は改善している。

児童生徒質問紙経年変化（※当てはまると答えた割合）

小学校



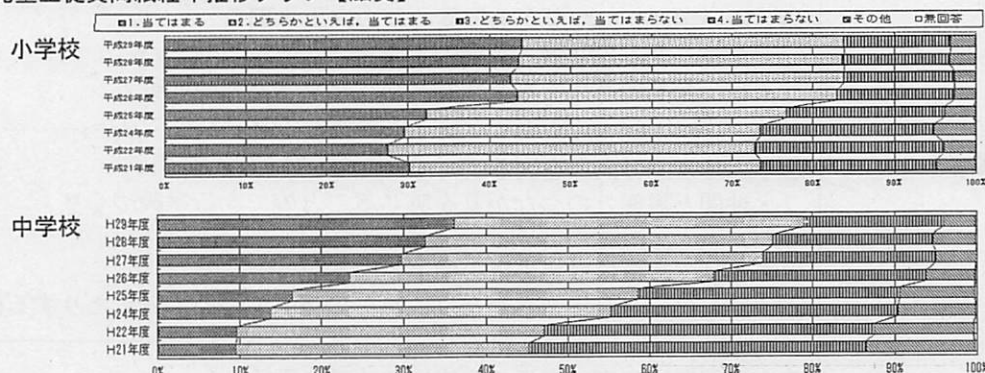
中学校



「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の項目についても、改善が見られることから、授業のはじめと終わりの方法等、授業の型については改善がされてきている。

授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

児童生徒質問紙経年推移グラフ【滋賀】



○課題 学んだことが役に立つと実感できるような「深い学び」

- ・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」の指標については、ポイントが下がってきている。また、「国語/算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についても改善が必要であり、教科の有用性を感じるよう社会のしくみと教科での学びを関連づける、質の高い授業を構成していくことが必要である。

5 「学ぶ力向上プラン」の成果と課題および今後の方向性

平成 26 年度の状況をもとに、これまで「学ぶ力向上プラン」の取組を進めることで、「自ら進んで挑戦する力」「互いの良さを認め尊重する力」など、子どもたちの学ぶ力を高めることについて、成果が見られる。

しかし、取組が成果につながっていないものも見られ、子どもたちの学ぶ力の向上につながるように、それぞれの取組の質を向上させることが必要である。各取組について検証し、改善に取り組んでいきたい。

【6つの視点における成果と課題】

6つの視点	成果	課題
一人ひとりの学ぶ力を高める	「自ら進んで挑戦する力」の向上	「自分の将来を真剣に考えること」
生活の中で学ぶ力をつける	「互いの良さを認め尊重する力」の向上 (学級づくりへの意識の向上)	「読書の習慣」の定着
繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す	「やり抜くことができる力」の向上 「自己肯定感」の向上	「考えをもったり、述べたりする力」の伸長
放課後や家での時間の使い方を考える		「生活習慣（家庭での過ごし方）」
県全体で子どもの力を伸ばす		「地域や社会とのつながりの実感」 「仲間と周囲とのつながりを大切にすること」
授業を改善する	授業スタイルの普及による 「話し合う活動」や「振り返る活動」等の機会の増加	学んだことが役に立つと実感できるような 「深い学び」

【今後の取組の方向性】

	内 容
学校の取組	○「深い学び」につながる授業の質の向上を図る ・基礎・基本の知識・技能の定着 ・自分なりの考えをもったり、述べたりする力の伸長 ○学級経営力の向上を図る ・仲間と周囲とのつながりを感じることでできる学級づくり ○キャリア教育の取組の質の向上を図る ・将来の夢や目標を考えたり、自分の将来について考えたりする機会の充実
学校が家庭や地域と協働する取組	○生活習慣（家庭での過ごし方）の改善を図る ・読書の習慣の定着 ・学校と家庭や地域との連携 ○地域や社会とのつながりを実感する取組を推進する ・地域のことについて調べたり、地域の人と関わったりする学習の充実